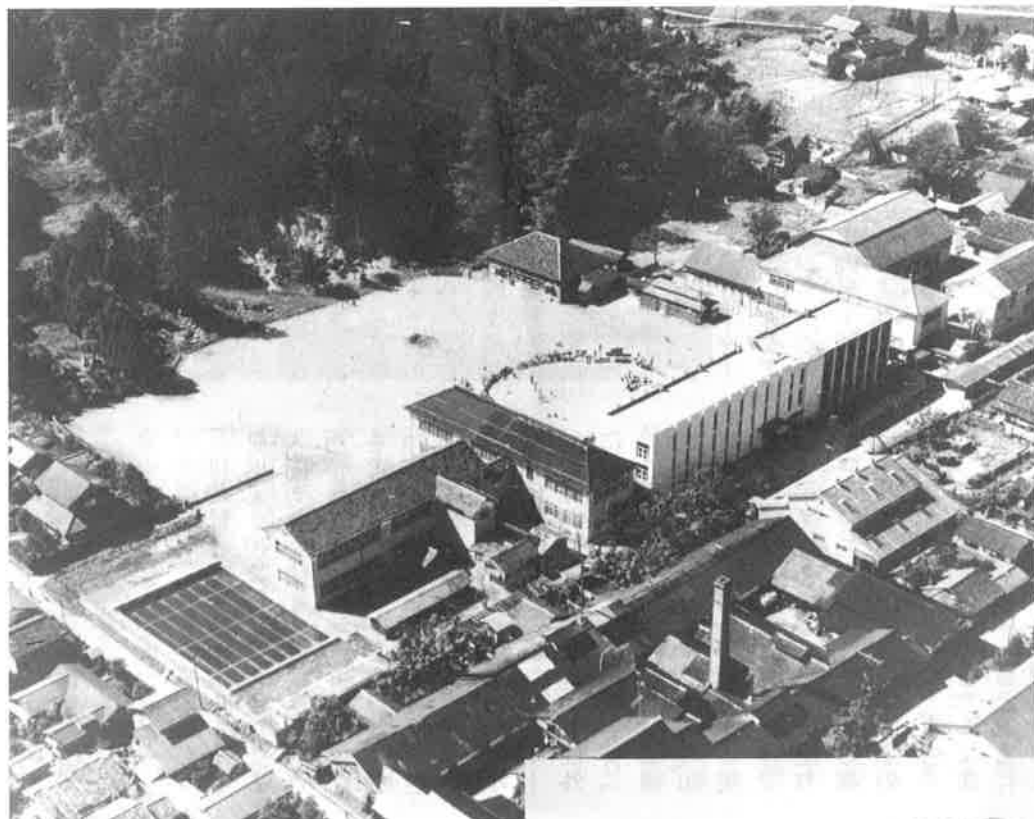




尚 操



〈発行所〉
 鳥取県立倉吉西高等学校
 尚 操 会
 〒682-0925
 鳥取県倉吉市秋喜20
 倉吉西高等学校内
 0858(28)-1811
 印刷 (有) 矢積印刷
 0858(22)-5312



百周年に向けて
 懐かしき学び舎を振り返る

▲余戸谷町時代の校舎です。
 校舎や周辺の家並に時代を
 感じさせます。



蒜山寮さわらびの家です。建物▶
 入り口にある看板は、尚操会館
 2階に保存してあります。

花・水・木

「凜と張り詰めた空気の中、的に矢があたった音だけが道場に響き渡る。」なんて状況は倉吉西弓道部ではお目にかかれませんか。弓道といえば常に静かに集中してやるイメージですが、西高ではそんな雰囲気はほとんどないのです。もちろん毎日真剣に取り組んでいますが、いつもワイワイ笑いながらひたすら練習をしていくのが倉吉弓道部スタイル。そんなスタイルを確立したのが初代弓道部師範、故進藤康文先生でした。的にあたる楽しさを大切に、細かな作法はそのうちに。校外の弓道家からは批判を受けることも多々ありますが、今も変わらずこのスタイルは続いています。

師範が亡くなり、私が弓道部を引き継いでもうすぐ二年が経とうとしています。やるからには、楽しくないと。やらされる練習は長く続きません。あたると楽しい、勝てばうれしい、負けたら悔しい、だから今日も練習しよう。今後も自分で進んで取り組む姿勢を大事にしたいと考えています。
 大好きな進藤流倉吉弓道、そして進藤イズムを継承していきたいと思っています。今日も道場は賑やかです。

弓道部コーチ・学校技能主事
 西高四十回生 福光 善太



来るべき百周年を 迎えるにあたって

尚操会会長 川田良雄

倉吉西高等学校は、平成二十六年（二〇一四年）に創立百周年を迎えます。昨年度来、尚操会は学校当局と連携をとりながら、来るべき百周年に向けての事業計画を練っているところで

す。百周年記念事業にあたりましては、尚操会会員の皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、この場をお借りしてお願いいたします。

昨年の会報では充実した体育施設を紹介しましたが、現在の西高は依然と随分様変わりしております。また、昨年度より西高二十一回生の竹ノ内誠一先生が校長先生に就任され、百周年に向けての環境が整いつつあると確信しております。西高を取り巻く環境が変化していくことにあわせて、そこで学ぶ西高生にも変化があらわれています。生徒たちの学びの質が変化し、学校に対する満足度も高く、国立公立大学をはじめとする四年制大学への進学率も年々増加をしております。会員の皆さまには変貌を遂げつつある西高の姿をぜひご覧になっていただきたいと思います。お近くにお越し

の際は西高にお立ち寄りくださいます。

先日、第八回尚操会関西支部総会が開催され、校長先生、吉田副会長、そして私の三名が参加しました。当日は六十五名の参加があり、とても賑やかな会でした。関西支部の伊吹支部長をはじめ、役員の方々にお礼申し上げます。現在県外では関西支部のみが活動中で、三年ごとに総会を開催しております。関東支部並びに九州支部は休会の状態で、会長としてのリーダーシップのなさに反省をいたしております。しかしながら、近づくにつれ百周年に向けて、会員の皆さまのお力をお借りしなければなりません。会報などを通じて情報提供しながら、多くの方に積極的に参加いただきたく願っております。

最後になりましたが、会員の皆さまのご繁栄とご多幸をお祈り申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。



未来を拓く倉吉西高生

校長 竹ノ内 誠 一（倉西二十一回卒）

母校は今、高校卒業十年後を見据えて、これから必要となる人間力を育成するために、「倉西夢きらりアクションプラン」をミッションとして取り組んでいます。その一つ、本校の特色であるチャレンジグループ活動は、ステージ・ホームの枠を取り払い興味関心により八グループに分かれて活動します。校外に出かけて調査・研究したり、

また、本校独自の生徒によるカンボジア井戸掘支援活動は、外務省のHPにも紹介されました。部活動も活発であり、多くの部が中国・全国大会に出場しました。自ら「知」を探究し、

校外から専門家を招聘し、講演会や座談会をします。生徒の知的好奇心を喚起し、社会的な視野と人間的な幅を広げるだけでなく、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力も高めます。発表会には鳥取大学の先生の指導助言をいただきます。

このような取組をとおして生徒たちは視野を広げるとともに具体的な将来の夢や希望を膨らませ、偏差値ではなく意欲や夢で大学を志望するようになりました。その結果今年の大学入試センター試験の受験者は、九十%を超えました。過去最高の受験者数であるとともに、進学実績は、過去最高記録を達成しました。

支部だより

関西支部

第八回尚操会関西支部 総会及び懇親会報告

記

▽とき 平成二十二年六月十三日
▽ところ KKR 京都くに荘
平成二十二年六月十三日(日)昭和天皇の皇后様のお生まれになられた久爾宮家跡に建つ「くに荘」で、倉吉より会長の川田良雄様、副会長の吉田嘉子様、西高校長の竹ノ内誠一様をお迎えして、高女二十八回卒の先輩から西高三十八回卒の若者計六十三名の参加による第八回尚操会関西支部総会及び懇親会を開催いたしました。

鴨川沿いの裏庭で記念撮影後、川田会長のユーモアある倉吉弁

の挨拶に、まるで倉吉に帰ったような和やかな雰囲気となりました。校長先生による最近の西高の状況に安堵の中、総会を終え懇親会に入りまし。鳥取県関西事務所で、二年の県内高校同窓会の役員を集



小鴨支部

記

めて情報交換会があり、その時
に声を掛けた鳥取県関西本部長
米田裕子（西高二十二回卒）様、
と鴨水会の村岡史朗様、鳥取中
央育英の山脇栄一郎様を来賓と
して迎えることができました。
また、関西支部創設時に尽力い
ただきました元西高校長の高多
田彬臣様とその教え子の西高十
二回生は前泊して同期会を開催
し、余興の踊りの練習までして
いただいたそうです。

西高三回卒の大徳寺元宗務総
長神波東嶽さんに講話をいただ
きました。京料理を賞味しなが
ら各期毎の紹介後、十二回生に
よる黒田節、三朝小唄の踊りで
盛り上がり、校長先生のお土産
の打吹公園だんごに舌鼓し、関
西本節よりのふるさとの酒の香
も楽しみました。最後は倉女卒
業生の校歌、参加者全員による
西高校歌の斉唱。次回は、平成
二十五年六月第二日曜日に大阪
道頓堀ホテルでの再会を約束し
て、京都駅行きの送迎バスを見
送り、無事終了することができ
ました。

短いひとときでしたが、ふる
さとの言葉を聞きながら、現在、
NHK放映の朝ドラの話題もあ
り、なつかしい母校、故郷に想
いを馳せ、繁栄を願う思いで会
場を後にいたしました。

西高二回生 伊吹美賀子

▽と き 平成二十一年八月四日
▽ところ さんさんプラザ
前略 平素はご無沙汰のみ打
過ぎ申し訳ございません。尚操
会小鴨支部総会並びに研修会
のご案内をいたしましたところ、
態々お電話賜わり恐縮いたしま
した。
平日であること、長びく天候
不順、さんさんプラザ周辺道路
工事による交通不便など重なっ
て参加者は少数ではございま
したが、有意義な集いとなりまし
た。

機関紙尚操に
よる新しい体育
施設についても
話題となり、次
回は見学の計画
もいたしたく存
じました。
米粉で作るシ
フォンケーキの
講習は農政事務
所の米の消費拡
大の機運もあり、
講師の紹介を頂
きました。奇し
くも西高生のお
母様でした。重
ねて最近の西高
の躍進、先生の



熱心な御指導等、美味しいケ
ーキを賞味しながら話題はつきる
ことなく、同窓生としての絆を
より強く感じたものでございま
す。

西高卒業生としての誇りを大
切に今後も親睦と交流を図り、
尚操会の発展、母校の益々の躍
進と活躍を祈るばかりです。
ようやく梅雨も明けそうです。
ますます盛夏到来厳しい暑さと
なりましょう。ご自愛下さいま
せ。校長先生はじめ職員の方々、
生徒の皆さんの御健勝と御多幸
をお祈り申し上げます。

西高二回生 梓島 和江

クラス会だより

卒寿の集まり

記

▽と き 平成二十一年十月二十五日
▽ところ 倉吉未来中心

卒業して七十二年となり、毎
年毎年休まずクラス会を、県内
の各市町村に在住の同期生の方
のお世話で開催してまいりまし
た。以前は三十人くらい出席数
がありました。最近年のせ
いか減少して来ましたが、しかし
ながら皆様のご加護によつて、
卒寿を迎えることができました。
同期生の顔を見て、懐かしい話
をするのを楽しみに、今回開催

をいたしました。いつも変わら
ぬ友情を感じながら、校歌を合
唱しつつ別れました。

倉女二十三回生 萬治壽美子

還暦同窓会

記

▽と き 平成二十二年一月二日
▽ところ 倉吉シティホテル

年末からの雪で、出席者が減
るのでないかとの不安の中、一
月二日は雪も止み、倉吉西高第
十五回卒業生還暦同窓会を倉吉
シティホテルで開催することが
できました。

受付ロビーでは「あーお久し
振り」「あの人誰?」「ちつとも
変わってないなあ」とあの頃と
変わらない元気な声飛びか
きました。

会の始めに還暦の厄除けお祓
いを受け、記念写真、皆一才で
も若く見えるよう、おすまし顔
でした。

当日都合が悪く、また体調を
崩された先生もありましたが、
小野塚先生、高浜先生のお二人
の恩師をお迎えし、先生の乾杯
の音頭のもと会の開催となりま
した。

お二人の先生は、私たちが卒
業して四十二年経っているにも
かわらず、お変わりなくお元
気でいらっしやるのに驚き、パ

ワーをい
ただきた
いと思う
程でした。

還暦を
迎え、何
人かの物
故者の方
の冥福を
祈りなが
ら、健康
であり続
けること
の大切さ、
幸福を感
じたひと
ときでも
ありまし
た。

卒業し
て以来二
度目の同
窓会とし
て、卒業
して初めて会った人、十年振
りに会った人、それぞれ同じ学
舎で過ごした思い出に浸り、孫
や親の介護の話、話はつきるこ
となく、あつという間の二時間
が過ぎてしまいました。

またの再会を楽しみに四十八
名の生徒と二名の先生、ロビー
に出ても別れを惜しみつつの閉
会となりました。

西高十五回生 本田 宣子



